

生物科学学会連合 第9回連絡会議記録

日 時： 2003年5月15日(月)午後2時~4時
場 所： 生物科学学会連合事務所内会議室(東京・本郷)
出席者： 石和 貞男(世話役, 日本遺伝学会) 河田 光博(日本解剖学会)
河野 重行(日本遺伝学会) 大森 正之(日本植物生理学会)
上島 励(日本進化学会) 小幡 邦彦(日本神経科学学会)
村松 喬(日本生化学会) 宮崎 俊一(日本生理学会)
松田 良一(日本動物学会, 日本発生生物学会) 岡野 俊行(日本比較生理生化学会)
山本 正幸(日本分子生物学会) 多羽田哲也(日本分子生物学会)
廣井 隆親(日本免疫学会) 松木 則夫(日本薬理学会)
オブザーバー：小林 興(元東京学芸大学)
(欠席) 日本細胞生物学会 日本植物学会 日本神経化学会 日本生態学会
日本生物教育学会 日本生物物理学会 日本比較内分泌学会
(敬称略, 学会名五十音順)

配布資料： 0. 第9回連絡者名簿(2003.5.15)
1. 第8回連絡会議記録(案)
2. 「生物学国際高等コンファレンス」の発足に関する要望書
3. 研究体制に関する提言
4. SPARC/JAPAN 関連

議事要旨：

1. 第8回記録の確認(資料1)

原案通り承認した。

2. 日本動物学会・松田委員から、連合が文部科学省に提出した「生物関連教科書の検定に関する意見書」についての報告があった。2003年1月16日に永田前世話人、片山、松田各委員、小林オブザーバー、事務局の5名が文部科学省を訪問し、担当課長に口頭説明の後に手渡しされた。

3. 生物学国際高等コンファレンス経過報告(資料2)

前回の連絡会にて説明された国際高等シンポジウム『Okazaki Biology Conference(仮称)』について、基礎生物学研究所の村田紀夫教授より同シンポジウムの発足に関する要望書の文案が提示された。すでに多くの学会から支持が表明されており、議論の結果、若干の文章の変更の後、連合として文部科学大臣に提出することが了承された。今後は、5/15作成の文案に各加盟学会から意見を寄せていただき最終版をまとめ、返事が寄せられなかった学会はご了承いただいたものとして、遅くとも6月初旬には正式に提出できるようにすることとした。

4. 研究体制について(資料3)

日本生化学会の村松 喬会長より、平成15年2月に同学会が文部科学省等関連諸機関に提

出した「研究体制に関する提言」が披露された。連合としてもこの趣旨に賛同し、若干の加筆変更後、すみやかにしかるべき機関に訴えて行くことで合意した。この提言は、「大学院生への経済支援」、「ポストポストドク問題（ポストドクター終了後の就職問題）」、「科学研究費」の3点に絞り、総合科学技術会議などの行政機関に対して現行制度の改善を求めるものである。本提言は8月までに意見をとりまとめ、科研費申請前の9月には提出すべきとの意見も出されたが、本件は厳しい時間的制約を設けず、継続して取り組み進めていく案件であることから、10月までに各加盟学会の意見をとりまとめることとした。

5. 教科書WGの経過報告（松田委員）

同WG副委員長の正木春彦氏（日本生化学会）による経過報告が連合世話人を通じて述べられた。さらに、本件のために申請していた科研費が2年間にわたり不採択となり、財政難や、本務との両立が難しく、時間調整など厳しい状況で作業に支障が出ている事が紹介された。この件に関し、近日中に今後の進め方について連合世話人がWGと協議し、本年内の執筆開始をめざすことが了解された。

6. SPARC/JAPANについて（資料4）

一部の大手出版社による学術出版物の寡占化とそれに伴う雑誌購読料の高騰に対抗するため、1998年に米国ARL（Association of Research Libraries）の後援で設立された、研究機関・図書館など学術研究に関与する団体との協力事業であるSPARC（Scholarly Publishing & Academic Resources Coalition）に関して、日本版SPARC（NIIの国際学術情報流通基盤整備事業）の最近の動向について事務局から説明があった。

7. 次回連絡会議について

今年度中に第10回連絡会議を開催することとなった。時期は10月頃を予定。

以上